

安定化二酸化塩素が新型コロナウイルスを減少させることを確認

藤田医科大学（医学部ウイルス・寄生虫学 村田貴之教授）は、株式会社 CANAK、一般社団法人消毒抗菌高度技能認定協会との共同研究により、安定化二酸化塩素（商品名 Air-Guard）が新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を減少させることを確認しました。

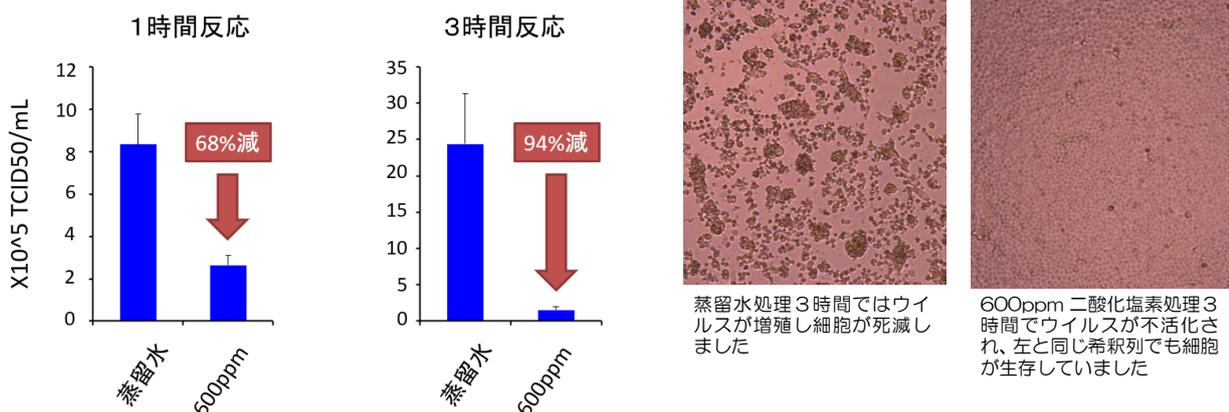
<実験内容>

SARS-CoV-2 のウイルス液と、蒸留水もしくは高藤式安定化二酸化塩素水溶液（600ppm）を1：39の体積比で混合し、室温で1時間あるいは3時間反応させました。反応後、適宜希釈して VeroE6/TMPRSS2 細胞に感染させ、3日後に Tissue culture infectious dose 50（TCID50）という指標を計算することで、ウイルスに対する効果を評価しました。

※VeroE6/TMPRSS2 細胞は細胞バンク JCRB より入手し、SARS-CoV-2 は神奈川県立衛生研究所より入手しました。すべての実験は藤田医科大学内に設置されたバイオセーフティレベル3（BSL3）の実験施設において、適切な封じ込め措置を執りながら実施しました。

<結果>

安定化二酸化塩素水溶液（600ppm）を1時間反応させることで、感染性ウイルス量は68%減少しました。3時間反応では94%減少しました。なお同じ条件でそれぞれ3つの独立した試行を行い、グラフはTCID50値の平均と標準偏差を示しています。



<まとめ>

今回の研究では、安定化二酸化塩素水溶液が SARS-CoV-2 を減少させることを明らかにしました。